

富山市埋蔵文化財調査報告 79

と やまじょうあと
富山城跡
と やまじょうか まち い せきしゅよう ぶ
富山城下町遺跡主要部
発掘調査報告書

- 総曲輪西地区第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 -

2015

富山市教育委員会

富山市埋蔵文化財調査報告 79

と やま じょうあと
富山城跡
と やま じょうか まち い せきしゅようぶ
富山城下町遺跡主要部
発掘調査報告書

- 総曲輪西地区第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 -

2015

富山市教育委員会



富山城跡 外堀全景（西から）



富山城跡 外堀トレンチ2断面 盛土部分（東から）



青割下水（SD1）全景（西から）

例　言

1. 本書は、総曲輪西地区第一種市街地再開発事業に伴う富山城跡・富山城下町遺跡主要部の発掘調査報告書である。
2. 本調査は総曲輪西地区市街地再開発組合からの委託を受け、富山市教育委員会埋蔵文化財センターの監理のもと、株式会社アーキジオが実施した。
3. 調査期間、調査面積、調査担当者は次のとおりである。
調査期間 平成26年11月17日～平成27年1月30日（現地発掘）
平成27年2月1日～平成27年12月28日（整理調査）
調査面積 3,960m²
監理担当者 細辻嘉門（富山市教育委員会埋蔵文化財センター）
現地調査担当者 新宅輝久 高野裕二 松永篤知（株式会社アーキジオ中日本支店）
整理調査担当者 新宅輝久
土木世話役（施工監理） 春本和浩（株式会社アーキジオ中日本支店）
測量士 宮本 齊（株式会社アーキジオ中日本支店）
4. 発掘調査から整理、報告書作成にあたり次の各氏、各機関からご指導、ご協力を頂いた。記して謝意を表します。
相羽重徳 秋山綾子 朝田 要 犬竹智裕 上野幸夫 越前慎子 岡田一広 柏木健司
金三津英則 金三津道子 九千房英之 九千房百合 小久保啓一 佐々木達夫 佐々木花江
佐々木由香 新宅 齊 鈴木重治 鈴木恵介 竹部佑介 慎留大輔 中島啓太 中原義央
仲光克顕 中村賢太郎 野村将之 橋 日奈子 藤田邦雄 藤田慎一 古本銃吉 御貞貞義
水岡育子 出光美術館 株式会社パレオ・ラボ 公益社団法人富山市シルバー人材センター
東京都中央区教育委員会 富山市郷土博物館・佐藤記念美術館 前田建設工業株式会社
5. 本書の執筆は、第1章・第2章を細辻が執筆し、第3章以降を新宅、松永が行い、各文の文責箇所は文末に記した。全体の編集は細辻、新宅が担当した。
6. 自然科学分析は、漆器の漆膜分析、木製品の樹種同定、井戸側板に対する放射性炭素年代測定、土壤分析は株式会社パレオ・ラボに、動物遺存体同定は三輪みなみ氏（愛知県半田市教育委員会）に、種子同定は島田亮仁氏（公益財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所）に依頼して行った。出土遺物に記されている文字の解読については、宮田康之（富山市教育委員会埋蔵文化財センター）が行った。
7. 富山城および富山城下町に関する古地図の掲載にあたっては、富山県立図書館の承認を得た。
8. 出土品及び原図、写真類は富山市教育委員会埋蔵文化財センターが保管している。

凡　例

1. 本書が使用する方位は真北、水平基準は海拔高である。
2. 座標は公共座標（世界測地系）を基にX = 76575、Y = 4005を起点とするA0を遺跡に設定した調査範囲を網羅できる位置に設定した。グリッドは真北を基線として5m四方を区画設定した。グリッドの名称については北西隅に位置するグリッド名から北→東方向へ展開する1グリッドに対し、東西方向にアルファベット（西からA、B、C……）を、南北方向にはアラビア数字（北から1、2、3……）を用いてこの両者を組み合わせて表記した。
3. 遺構の表記には次の記号を用いた。
SD : 溝 SE : 井戸 SK : 土坑 SP : ピット SX : 不明遺構
4. 遺構の土色、土器胎土色は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』による。
5. 遺構図面および遺物実測図内の指示は以下のとおりである。

- | | | |
|----------------|---------------|--------------------|
| □：地山部分 | ■：赤彩 朱漆の文様 | ■：漆器の朱漆部分 |
| ■：珠洲焼断面 | ■：黒漆の文様、銀彩の文様 | ■：黄漆 |
| □：土師質土器 陶磁器の断面 | □：釉薬範囲 | |
| ■：使用痕範囲 | ■：煤、(灯芯油痕の範囲) | これ以外の指示はページ毎に示している |
6. 土器や木質遺物の実測図中に記した矢印はケズリ調整や成形の刃の方向を示している。
 7. 土器実測図断面中の破線は粘土積み上げ痕や接合痕である。
 8. 本書挿図の縮尺は図版ごとに明示している。
 9. 本書内の遺物の器種名称および年代観、漆器、下駄、はきものの名称、木質遺物の木取り、井戸の部分名称は以下の文献を参考としている。

器種名称：東京都新宿区1992『内藤町遺跡』

肥前系陶磁器の年代観：

江戸在地系土器研究会1996『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題』

九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の編年』

瀬戸・美濃系陶磁器の年代観：『瀬戸市史陶磁史編』四

越中瀬戸の年代観：

宮田進一1988『越中瀬戸の窯資料1』『大境』12号 富山考古学会

1998『越中瀬戸の変遷と分布』『中近世の北陸』桂書房

在地系土師器皿の年代観：

(公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告』

木製遺物の漆器や下駄、はきものなどの部分名称：

(公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告』

木製遺物の木取り：布留遺跡天理教発掘調査団1981『出土木器の樹種と木取り I・II』

井戸の部分名称：宇野隆夫1982『井戸考』『史林』第65巻 第5号

目 次

卷頭図版

例言

凡例

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査及び整理等調査の経過	1
第3節 調査日誌抄	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と成果	7
第1節 調査の方法	7
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
第4章 自然科学分析	145
第1節 SE242 出土井戸側板の年代測定について	145
第2節 富山城跡・富山城下町遺跡主要部出土漆器類の塗膜分析	148
第3節 富山城跡・富山城下町遺跡主要部出土木製品の樹種同定について	156
第4節 富山城跡・富山城下町遺跡主要部の土壤分析について	161
第5節 富山城跡・富山城下町遺跡主要部から出土した動物遺存体	169
第6節 富山城跡・富山城下町遺跡主要部出土の種実遺体群	174
第5章 総括	177
第1節 調査成果のまとめ	177
第2節 結構組型井戸枠の下位構造と透水層の関係について	185
第3節 井戸枠用結桶の竹籠について	189

挿図目次

第 1 図	周辺の遺跡分布図 (1:50000) -----	5
第 2 図	調査区位置図 (1:2500) -----	6
第 3 図	調査区周辺の地形 (1:25000) -----	6
第 4 図	調査区割・トレンチ位置図 (1:800) -----	8
第 5 図	基本層序 -----	9
第 6 図	富山城跡・富山城下町遺跡主要部遺構全体図 (1:400) -----	12.13
第 7 図	3 区 SD1 トレンチ 1 (外堀部分) 東壁断面図 (1:80) -----	14
第 8 図	4 区 SD1 トレンチ 2 (外堀部分) 西壁断面図 (1:80) -----	16
第 9 図	4 区 SD1 トレンチ 3 (外堀部分) 東壁断面図 (1:80) -----	18
第 10 図	富山城跡 外堀 (SD1) 出土遺物実測図 (1:3) -----	20
第 11 図	富山城下町遺跡主要部全体図 (1:300) -----	22.23
第 12 図	SD1 (背割下水) 平面図、立面図 (1:80) -----	24
第 13 図	SD1 (背割下水) 平面図、立面図 (1:80) -----	25
第 14 図	背割下水 (SD1) 遺物実測図その 1 (1:3) -----	27
第 15 図	背割下水 (SD1) 遺物実測図その 2 (1:3) -----	28
第 16 図	背割下水 (SD1) 遺物実測図その 3 (1:3) -----	29
第 17 図	背割下水 (SD1) 遺物実測図その 4 (1:3) -----	30
第 18 図	背割下水 (SD1) 遺物実測図その 5 (1:3) -----	31
第 19 図	背割下水 (SD1) 遺物実測図その 6 (1:3) -----	32
第 20 図	SD53, 81 遺物実測図 (1:3) -----	34
第 21 図	SD81 遺物実測図その 1 (1:3) -----	35
第 22 図	SD81 遺物実測図その 2 (1:3) -----	36
第 23 図	SD81 遺物実測図その 3 (1:3) -----	37
第 24 図	SD81 遺物実測図その 4 (1:3) -----	38
第 25 図	SD166, 173 遺物実測図 (1:3) -----	39
第 26 図	SD264, 284 遺物実測図 (1:3) -----	40
第 27 図	SE110 遺構平面図、断面図 (1:40) -----	42
第 28 図	SE110 遺物実測図 (1:3) -----	43
第 29 図	SE110 井戸側板 1 段目実測図 (1:6) -----	44
第 30 図	SE110 井戸側板 2 段目実測図 (1:6) -----	45
第 31 図	SE242 遺構平面図、断面図 (1:40) -----	46
第 32 図	SE242 遺物・井戸側板実測図 (1:3・1:8) -----	47
第 33 図	SE248 遺構平面図、断面図 (1:40) -----	49
第 34 図	SE248 遺物・井戸側板実測図 (1:3・1:8) -----	50
第 35 図	SE248 遺物実測図 (1:3) -----	51
第 36 図	SE273, SK282 遺構平面図、断面図 (1:40) -----	52
第 37 図	SE281 遺物実測図 (1:3・1:6) -----	53
第 38 図	SE281, SK277・283 遺構平面図、断面図 (1:80) -----	54
第 39 図	SE281 井戸側板 1 段目実測図 (1:6) -----	55

第 40 図	SE281 井戸側板2段目実測図 (1:6)	56
第 41 図	SE286 遺構平面図、断面図 (1:40)	58
第 42 図	SE286 遺物・井戸側板実測図 (1:3・1:4・1:6)	59
第 43 図	富山城下町遺跡主要部1区南側町屋部分遺構平面図 (1:100)	61
第 44 図	SK2 遺物実測図その1 (1:3)	62
第 45 図	SK2 遺物実測図その2 (1:3)	63
第 46 図	SK2, 3 遺物実測図 (1:3)	64
第 47 図	SK4, 9 遺物実測図 (1:3)	66
第 48 図	SK9 遺物実測図 (1:3)	67
第 49 図	SK10, 12, 13, 14 遺物実測図 (1:3)	69
第 50 図	SK19 遺物実測図 (1:3)	71
第 51 図	SK21, 23, 27, 29 遺物実測図 (1:3)	72
第 52 図	SK41, 43 遺物実測図 (1:3)	74
第 53 図	SK45 遺構平面図、断面図 (1:60)	75
第 54 図	SK45 遺物実測図その1 (1:3)	77
第 55 図	SK45 遺物実測図その2 (1:3)	78
第 56 図	SK50 遺構平面図、断面図 (1:60)	80
第 57 図	SK50 遺物実測図その1 (1:3)	81
第 58 図	SK50 遺物実測図その2 (1:3)	82
第 59 図	SK50 遺物実測図その3 (1:3)	83
第 60 図	SK83, 92 遺構平面図、断面図 (1:40・1:80)	85
第 61 図	SK50, 58, 83 遺物実測図 (1:3・1:4)	86
第 62 図	SK87 遺構平面図、断面図 (1:40)	88
第 63 図	SK92, 87 遺物実測図 (1:3)	89
第 64 図	SK87 遺物実測図 (1:3)	90
第 65 図	SK116, 127 遺構平面図、断面図 (1:40)	92
第 66 図	SK132 遺構平面図、断面図・小型結桶出土状況図 (1:80・1:40)	93
第 67 図	SK116 遺物実測図 (1:3)	94
第 68 図	SK127, 132 遺物実測図 (1:3)	95
第 69 図	SK139, 146, 154, 155 遺物実測図 (1:3)	97
第 70 図	SK140, 237, 239 遺構平面図、断面図 (1:80)	99
第 71 図	SK237 遺物実測図その1 (1:3)	100
第 72 図	SK237 遺物実測図その2 (1:3)	101
第 73 図	SK237 遺物実測図その3 (1:3)	102
第 74 図	SK239 遺物実測図 (1:3)	103
第 75 図	富山城下町遺跡主要部1区北側地区 遺構平面図 (1:200)	105
第 76 図	SK236, 238, 247 遺物実測図 (1:3)	106
第 77 図	SK252, 45, SP253 遺構平面図、断面図 (1:50)	109
第 78 図	SK249, 251, 252 遺物実測図 (1:3)	110
第 79 図	SK277 遺物実測図その1 (1:3)	111

第 80 図	SK277 遺物実測図その 2 (1:3)	112
第 81 図	SK277 遺物実測図その 3 (1:3)	113
第 82 図	SK283、SX147 遺物実測図 (1:3)	115
第 83 図	2 区北側トレンチ断面 (1:40)	116, 117
第 84 図	2 区中央トレンチ断面 (1:40)	118, 119
第 85 図	ウイグルマッチング結果	147
第 86 図	暦年較正結果	147
第 87 図	漆製品の塗膜構造 (a) と反射電子像 (b) (1)	152
第 88 図	漆製品の塗膜構造 (a) と反射電子像 (b) (2)	153
第 89 図	漆製品の塗膜構造 (a) と反射電子像 (b) (3)	154
第 90 図	漆製品の塗膜構造 (a) と反射電子像 (b) (4)	155
第 91 図	富山城下町遺跡主要部出土場所別の樹種同定結果	158
第 92 図	富山城・富山城下町遺跡主要部出土木製品の光学顕微鏡写真	160
第 93 図	富山城跡・富山城下町遺跡主要部における花粉分布図	162
第 94 図	富山城跡・富山城下町遺跡主要部における植物珪酸体分布図	164
第 95 図	堆積物中の珪藻化石分布図	164
第 96 図	富山城・富山城下町遺跡主要部から産出した花粉化石・植物珪酸体・珪藻化石	168
第 97 図	出土動物遺存体	173
第 98 図	ウリ類の種子分類グラフ	175
第 99 図	近世富山城下町の様相と発掘調査位置	179
第 100 図	調査位置付近の変遷	180
第 101 図	富山城下町遺跡主要部 遺構変遷図 (1:400)	181
第 102 図	富山城下町遺跡主要部出土木質遺物 (1:3)	182
第 103 図	内丸鉢の痕跡が残る井戸側 (1:40)	183
第 104 図	SE242・SE248・SE286 の下位構造と透水層	186
第 105 図	SE110・SE273・SE281 の推定下位構造と透水層	188
第 106 図	竹籠の編み方の基本	190

表目次

第 1 表	基本層序一覧	10
第 2 表	富山城跡・富山城下町遺跡（主要部）遺構観察表	120, 121
第 3 表	土器・石製品・金属製品遺物観察表	122～131
第 4 表	木製遺物観察表	132～135
第 5 表	井戸側観察表	136～144
第 6 表	ウイグルマッチング測定試料および処理	145
第 7 表	単体測定試料および処理	145
第 8 表	放射性炭素年代測定、暦年較正、ウイグルマッチングの結果	146
第 9 表	単体試料の放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	146
第 10 表	分析対象一覧	148

第 11 表 彩色塗膜層等のX線分析結果	150
第 12 表 塗膜分析結果	151
第 13 表 富山城・富山城下町遺跡主要部出土木製品の樹種同定結果一覧	156
第 14 表 富山城・富山城下町遺跡主要部出土木製品の樹種同定結果一覧	159
第 15 表 分析試料一覧	161
第 16 表 産出花粉孢子一覧表	163
第 17 表 試料1g当たりのプラント・オバール個数	164
第 18 表 堆積物中の珪藻化石産出表	165
第 19 表 種名表	171
第 20 表 出土動物遺存体	172
第 21 表 ウシの歯の計測値	172
第 22 表 ウシの下顎骨の計測値	172
第 23 表 同定結果一覧	175
第 24 表 分類群の記載	175
第 25 表 ウリ類種子計測値	175

写真図版目次

卷頭写真 1	富山城跡 外堀全景（西から）
卷頭写真 2	富山城跡 外堀トレンチ2断面 盛土部分 背割下水（SD1）全景（西から）
写真図版 1	富山城下町遺跡主要部 1区全景（北から） 富山城下町遺跡主要部 1区南側完掘近景（北から）
写真図版 2	富山城下町遺跡主要部 2区全景（北から） 富山城下町遺跡主要部 2区中央トレンチ土層断面（南西から）
写真図版 3	背割下水直下 SE242 井戸側検出状況（東から） SE110 井戸側1段目検出状況（南から） SE110 断面（北から） SE110 井戸側2段目検出状況（北から） SE110 井戸側3段目検出状況（北から）
写真図版 4	SK283・SE281 断面（西から） SE248 断面（北から） SE281 検出状況（西から） SE273 井戸側検出状況（西から） SE286 井戸側3・4段目検出状況（南から）
写真図版 5	SK45 断面（北西から） SK45・SK252 断面（北西から） SK50 断面（北西から） SK45 完掘状況（南から） SK50 完掘状況（北西から）
写真図版 6	SK132 断面（南から） SD53 断面（北から） SK67 断面（北から） SK73・SD59 断面（東から） SK76 断面（西から）

写真図版 7 SK237 断面（南から）

SK87・SD59 断面（西から） SK92 断面（西から）

SK109 断面（南から） SK237 完掘状況（南東から）

写真図版 8 富山城跡 外堀出土遺物 富山城下町遺跡主要部 SD1 出土遺物

写真図版 9 富山城下町遺跡主要部 SK2 出土遺物 富山城下町遺跡主要部 SK45 出土遺物

写真図版 10 富山城下町遺跡主要部 SK50 出土遺物 富山城下町遺跡主要部 SK237 出土遺物

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

富山城跡（遺跡番号2010442）は、平成5年3月、富山城下町遺跡主要部（遺跡番号2011048）は、平成25年度に、「富山市遺跡地図」に登載され、周知の埋蔵文化財包蔵地となった。

遺跡内では各種開発に先立つ試掘調査及び発掘調査が、行われており、これまでに数回遺跡範囲の見直しが行われた。現在の埋蔵文化財包蔵地面積は富山城跡が343,000m²、富山城下町遺跡主要部が144,000m²である。

富山市総曲輪三丁目・一番町地内において、商業施設（シネマコンプレックス含む）・宿泊施設・住宅施設・駐車場を主要用途とした、「総曲輪西地区第一種市街地再開発」事業が計画され、平成20年3月に再開発準備組合が設立された。平成23年9月に都市計画決定が告示され、平成25年には事業主体となる再開発組合設立が認可された。

事業が進展するなかで、事業地内での埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて、富山市都市再生整備課と市教委埋蔵文化財センターで協議を行った。事業予定地全域5686m²が、富山城跡・富山城下町遺跡主要部の範囲に含まれていたため、工事主体者である総曲輪西地区市街地再開発組合から依頼をうけ、事業対象地の一部において平成26年6月24日～6月25日に市教委で試掘調査を実施したところ、全城で、江戸時代の遺物包含層と土坑・溝・ピットを検出し、近世陶磁器などが出土した。埋蔵文化財の所在を確認したため、試掘調査の結果に基づき、工事主体者と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。協議の結果、過去に高層建物や地下室のある建物で遺跡が残っていない部分を除いた工事部分3960m²について、遺跡の保護ができないため発掘調査を行い記録保存することとなった。

工事主体者からの発掘調査監理依頼は、権利変換計画認可後の平成26年7月14日に提出され、その後発掘調査に関する協定を市教委・総曲輪西地区市街地再開発組合・株式会社アーキジオの三者の間で締結した。

文化財保護法93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出は、工事主体者から平成26年10月2日付けで市教委へ提出され、市教委の副申を付けて平成26年10月3日付け埋文第75号で富山県教育委員会へ提出した。

文化財保護法99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告は、市教委から平成26年11月28日付け埋文第75号により富山県教育委員会へ提出した。

第2節 発掘調査及び整理等調査の経過

発掘調査は工事主体者である総曲輪西地区再開発組合から株式会社アーキジオに業務を発注し、埋蔵文化財センター職員が発掘調査の監理にあたった。

調査地は建物解体工事の都合上、一度に発掘調査を行えないため、便宜上、総曲輪通りを挟んで南街区と北街区に分け、さらに南街区は1区と2区、北街区は3区と4区に分けて調査区を設定し、概ね1区、2区、3区、4区の順で調査を進めた。

発掘調査は平成26年11月17日から平成27年1月30日まで行なった。表土掘削はバックホウを用い

て平成26年11月17日に1区から開始し、建物解体が終了した調査区から随時表土掘削を行った。表土排土は、調査区から搬出した。表土除去作業と並行して、11月18日1区から人力による包含層掘削・遺構検出作業を開始した。

調査は立地条件と試掘調査の結果から、江戸時代の遺物包含層と遺構面が想定された。

掘削を開始すると、南街区の調査区南側や東側で江戸時代後期の遺構が確認され、遺物が出土した。遺物は、公共座標を基にグリッドを設定してグリッド毎に取り上げた。試掘調査の結果から、遺物包含層掘削は削平されている可能性が高かったため、表土掘削後、ただちに遺構検出作業を行い、その後遺構掘削作業を行った。掘削作業と並行して随時写真撮影・測量・図面作成作業を行った。遺構掘削を終えた調査区から随時高所作業車を使用して全景写真を撮影した。同様の工程で、2区、3区、4区の順で調査を進めた。2区の中世以前の堆積層と3・4区の外堀および土塁の基底部について土壤分析試料の採取を行った。

現地は、埋め戻しは行なわず、埋蔵文化財センターの検査をうけ発掘調査が完了したことを確認の上、平成27年2月2日終了、現地を引き渡した。

遺物整理・報告書作成作業は、現地調査終了後、株式会社アーキオで実施した。遺物接合作業は、遺構毎やグリッド内の他、グリッドと対応する遺構と包含層でも行った。遺構出土遺物でも特徴的なもの、全体のプロポーションがわかるものを優先して図化した。遺物写真是デジタルカメラを使用し、図化したものをお優先して撮影した。自然科学分析は、動植物遺存体・木製品樹種同定・木製品ウイルマッチング・漆器塗膜分析・土壤分析を行った。これらの作業と並行して原稿作成を行い、平成27年12月28日に本書を刊行し、すべての発掘調査業務を完了した。

第3節 調査日誌抄

平成26年

〔11月〕

17日：発掘調査開始。1区からバックホウによる表土掘削開始。

21日：1区背割下水検出。

18日：人力による遺構検出開始。

27日：1区遺構掘削開始。

20日：基準点測量・事務所設置。

〔12月〕

8日：2区表土掘削開始。

22日：3区表土掘削開始。

12日：1区高所作業車による全景写真撮影。

23日：1区調査完了。

16日：2区遺構検出開始。

19日：2区遺構掘削開始。

平成27年

〔1月〕

6日：3区三ノ丸外堀検出作業開始。

20日：4区検出作業開始。

7日：2区全景写真撮影。

27日：3区・4区調査完了。

9日：2区調査完了、3区掘削作業開始。

28～30日：機材撤出、現地調査完了。

15日：4区表土掘削開始。

(細辻)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

富山市は富山県のはば中央部に位置する。富山市の地勢は大まかに山間部と平野部に大別され、南が高く、北が低くなるという地勢を示しており、海岸から標高3,000m級の高山地帯まで変化に富む。

富山平野は富山県中央部の大部分を占めており、北は富山湾と面し、東端は早月川扇状地、西端は県のはば中央を二分する奥羽丘陵に、南は飛騨山地から続く丘陵に接する。神通川・常願寺川とその支流が形成した扇状地や低位面・氾濫平野の発達が顕著である。

富山城跡・富山城下町遺跡主要部（第1図）は、富山市中心部にある富山城を中心とした、東西800m、南北750mの範囲に広がる、近世の城館・城下町遺跡である。

今回調査区の所在する富山市総曲輪3丁目・一番町地区は、富山湾から7.5km内陸に入った神通川右岸の富山市中心部に位置する。神通川の堆積によって形成された緩扇状地、氾濫平野上に立地する（図3）。現在の地形は、中心市街地という性格上開発が繰り返されほぼ平坦であるが、過去には神通川とその支流が幾度となく流れを変え、旧河道がいくつか確認される。

神通川は、岐阜県の川上岳に源を発した渓谷が断崖絶壁を開析し、富山、岐阜県境で高原川と合流して、富山市篠津付近で富山平野に出る。山麓山腹に段丘平野や扇状地を形成しながら北流し、富山市鶴島付近で井田川と合流して富山湾に注ぐ。富山市中心部の神通川は、現在はほぼ真っ直ぐに北流して富山湾に注いでいるが、かつては現在の富山中部高校の辺りで東に曲がり、富山城の北を東に流れ、現在の赤江町の辺りで大きく西に曲がって蛇行していたことが、土地条件図や旧地図などによって確認できる。このため、蛇行部分でしばしば水害がおこり、水害対策として明治時代に蛇行部分を短絡する分水路を開削し（駆越線）、一定量を超える洪水は分水路に流れるようにした。やがて元の本流には水が流れなくなったため、駆越線が本流となり、かつての本流は川幅を狭め松川となった。廃川地は富岩運河開削の排土により埋め立てられ、県庁や市役所が建設された。

調査区のすぐ東を国道41号が南北に貫いている。調査区の南は旧北陸街道にあたる平和通りが東西に通っている。調査区の西は大手町通りである。調査区は総曲輪通り商店街の一部であり、富山市の中心市街地を形成している。調査区の北300mには富山城址公園が所在する。土地利用は、調査前の現況は商業地・宅地である。今回の調査地は総曲輪3丁目・一番町地区の西側にあたり、遺跡の南中部に位置する。調査区付近の標高は8~9mで、ほぼ平坦である。

第2節 歴史的環境（第1図）

絵図によると、調査区は富山城外堀、武家屋敷地、町屋にあたる。武家屋敷地は一貫して「螺(蟹)江」家が屋敷を構えていたとみられる。螺江家は、万治~寛文期には螺江主水が1500石の馬廻頭、安政期には螺江監物が1400石の家老を務めており（高瀬編1987）、上級武士にあたる家柄である。

次に富山城跡と富山城下町遺跡主要部の発掘調査成果について概観する。

本遺跡周辺では、富山城築城以前の遺構・遺物も検出している。平成22年度の城址公園西部（旧西ノ丸）内の工事立会調査では、「宅持」と墨書きされた奈良時代後期の須恵器が出土した。官衙関連施設の存在

する可能性がある。平成19年度の本丸東部の発掘調査では、土壘下部から笄や漆椀、陶磁器が出土し、室町期の武家居館の存在が推測された。また、その下層から平安時代の湿地の存在を確認し、築城以前の地形が明らかとなった。平成16年度の総曲輪地区の発掘調査では奈良・平安時代の遺構を検出した。この他、散発的であるが、古い時代では縄文時代や弥生時代の遺物も出土しており、室町時代以前から、遺跡周辺一帯は開発が進んでいたと考えられる。

なお、富山城築城以前の時代の遺跡は、総曲輪遺跡として、富山城跡や富山城下町遺跡主要部と区別して、埋蔵文化財包蔵地に指定している。

戦国時代に、この地では神保氏により城が築かれた（戦国期富山城）。戦国期富山城は、従来は現在の城址公園の約1km南の星井町周辺にあったとする説が有力であったが、城址公園の整備に伴う一連の発掘調査によって、現城址公園内に戦国期富山城の遺構が良好に残っていることが明らかとなった。

戦国時代の発掘調査成果としては、城址公園中央部では、城を東西に分けると考えられる堀を確認し、標高差から東側の郭が本丸、西側が二ノ丸と推定されている〔市教委2004〕。この堀は江戸初期に完全に埋没し、水平に整地されたことが判明した。城址公園の北部ではこれに直交する東西方向の薬研堀を検出した。本丸東部では土取り跡とみられる鋸先による凹凸面を検出した〔市教委2006a・2008〕。堀上部の整地土を採取した可能性が考えられる。本丸北東部では井戸を検出した。二ノ丸では鍛冶遺構とみられる焼土が見つかり、周辺から羽口、鍛造剥片、鉄滓、土壁片が出土した〔市教委2004〕。砥石や刃物の表面仕上げに使用するとみられる雲母も見つかり、研磨までの工程を行っていたと推定される。城下町では、平成20年度に総曲輪4丁目・旅籠町地区で再開発ビルに先立つ発掘調査で、15世紀後葉から16世紀後葉の溝・土坑を検出した〔市教委2010〕。溝は直交しており、断面観察で箱堀から薬研堀に作り替えられていることがわかった。戦国期富山城との関連は不明であるが、城下町の区画溝の可能性がある。現在のところ、戦国期富山城および城下町の遺構・遺物は点的にしか把握されておらず、全体構造を解明するには至っていない。

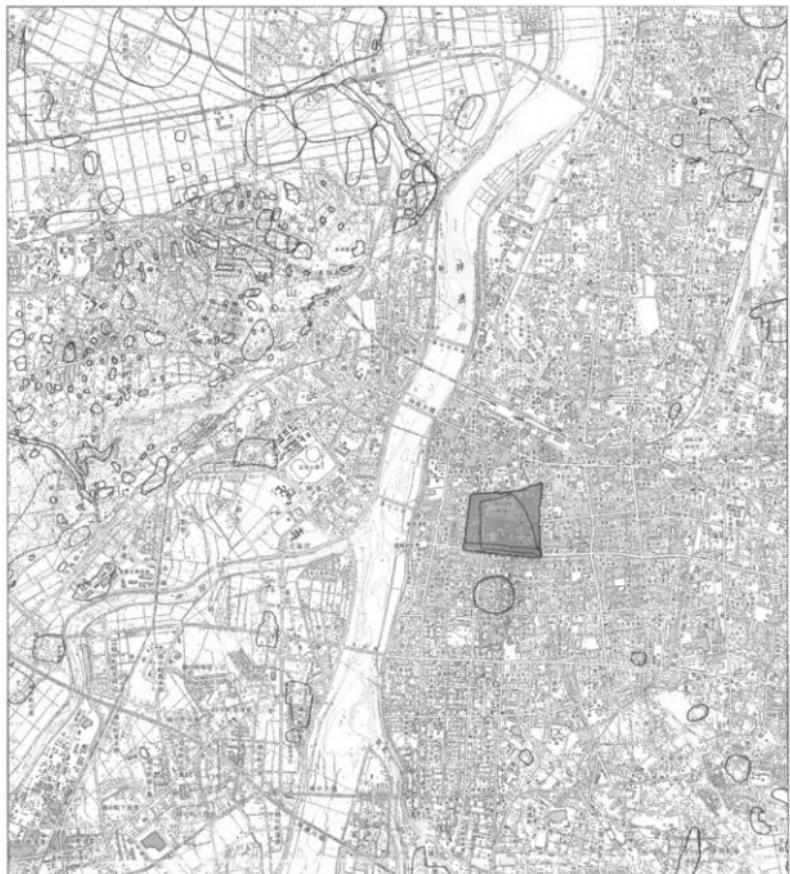
近世に入ると、慶長10（1605）年、加賀二代藩主前田利長が、隠居により富山城に入った。その際、富山城は全面的に新たに築城され、近世城郭として整備された（慶長期富山城）。ところが慶長14（1609）年、大火により富山城は焼失しその後再建されないまま、いったん廃城となつた。寛永16（1939）年、加賀藩から10万石を分与され富山藩が成立し、それに伴つて寛文元（1661）年から幕府の許可を得て本格的な整備が行われた（寛文期富山城）。なお、慶长期富山城と寛文期富山城の繩張りが異なることから、大幅に変更が加えられたとする説がある〔古川2006〕。

近世富山城については、城址公園整備や路面電車敷設、民間開発に伴つて発掘調査が行われている。平成14年度から継続している城址公園整備に伴う発掘調査では、本丸・西ノ丸を対象とし、井戸・石組溝・廃棄土坑などの遺構を検出した。平成21年度調査では、本丸御殿に伴う杏脱石や飛び石とみられる石材を確認した。石垣解体に伴う発掘調査では、石垣の構造や積み替えの過程が判明した。平成19年度・22年度には、本丸東南部にある土壘の調査を行い、40度の勾配を持つこと、盛土の造成方法が明らかとなった。西ノ丸北西部の内堀跡地では、現地表面下5.8mで堀底を確認した。平成20年度には主に路面電車敷設に伴う発掘調査・工事立会調査で二の丸の二階櫓門や三の丸の大手門の石垣基底部を確認し、位置や規模が判明した。また、三の丸南部では寛文期以降の絵図に表れない堀を検出し、慶長期の外堀とみられている〔市教委2009b〕。平成26年度には旧総曲輪小学校跡地で、三ノ丸外堀の調査を行い、三ノ丸側を深く掘り込む二段堀り構造であることなど、外堀の構造が明らかとなった。〔市教委2014c〕

城下町では、平成6年に外堀の南東角沿いの調査で、井戸・溝・廃棄土坑を確認した〔市教委2005〕。

平成17年度の調査では武家地と町人地を分ける背割下水を初めて検出した。背割下水は素掘りから石組みへ作り替えられたこと、背割下水北側の武家地は「戸田式部」と書かれた木札が出土し戸田式部邸であること、背割下水南側の町屋では小銀治が行われていたことが判明した〔市教委2006b〕。平成20年度の調査でも背割下水を検出し、背割下水は2時期あること、背割下水北側武家地では井戸や土坑が密集し裏庭と考えられることが明らかとなった。背割下水南側の町人地は遺構密度が高く、土坑内に礎石を置いた建物基礎を検出した〔市教委2010〕。平成25年度には北陸街道南側の町屋の調査では井戸・トイレ等を検出した。木製品の素材や端材が大量に出土し、木材加工場の存在が推測される〔市教委2014a〕。今回調査区の南東に隣接する一番町の調査では、背割下水を検出し、構造と変遷過程が3時期であることが明らかとなった〔市教委2014b〕。

(細辻)



第1図 周辺の遺跡分布図(1:50000)



第2図 調査区位置図(1:2500)



第3図 調査区周辺の地形(1:25000 2007年国土地理院に加筆)

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

今回の富山城跡・富山城下町遺跡主要部の発掘調査では、周辺工事との兼ね合いで、富山城下町遺跡主要部西半を1区、同東半を2区とし、富山城跡西半を3区、同東半を4区として、4つの調査区に分けた（第4図）。ある程度重複期間もあるが、概ね1区、2区、3区、4区の順に調査を進めた。4つの調査区において、基本となる5mグリッド等は共通したものを使用したが、遺跡の性格等の違いを勘案して、調査区によって意図的に調査方法を変えた。その詳細を、以下調査区ごとに述べる。

1区（富山城下町遺跡主要部西半）

1区では、富山市教育委員会埋蔵文化財センターの監理担当者立会いの下でバックホウによる表土掘削を行い、その後人力で遺構検出を行った。表土と検出面の間にある遺物包含層については、残りが良くない上、層中に含まれる遺物量も少なかったことから、表土掘削に合わせてバックホウによつて少しずつ慎重に掘り進めた。遺構検出は、調査区南端から北に向かって、ジョレンで検出面を慎重に削りながら、遺構の平面形を確認していく。遺構検出後、土層記録等を取りながら、遺構掘削を行なった。当調査区では、工期が限られる中、かなり大型の遺構がいくつも見られたため、安全かつ遺構を傷めない範囲でミニバックホウを投入し、機械・人力併用で遺構掘削を行った。

1区では、前年度における隣接地の調査成果や古絵図等に基づき、調査開始前から、上級武家屋敷地と町屋敷地の境界となる背割下水（近世から近代にかけて数段階あり）が重要遺構として想定されていた。表土掘削開始後まもなく想定通りの位置で背割下水を検出し、これをSD1として、以降は種類を問わず検出遺構に2～の遺構番号を付した。ただし、今回の調査においては、近世の背割下水に焦点を絞り、近代以降については写真記録と断面観察記録のみにとどめた。背割下水の掘削においても、遺構を傷めないように留意して機械・人力を併用した。最終的に、当調査区の遺構番号は256まで使用したが、埋土等の検討の結果、遺構ではないと判明したものはそのまま欠番としたため、遺構番号は遺構数を反映していない。

なお、1区の北半部は総曲輪商店街の真下にあたり、かなりの搅乱を受けていたため、搅乱部分は重機で掘り下げた。搅乱を掘り抜いたところ、近世遺構検出面よりもかなり深いところまで達しており、搅乱範囲内で近世の遺構を検出することはできなかった。

2区（富山城下町遺跡主要部東半）

2区についても、表土掘削・遺構検出・遺構掘削の流れは1区と基本的に同じである。ただし当調査区は、背割下水が通らず、古絵図上の上級武家屋敷地のみにあたるため、調査前は屋敷に伴う遺構・遺物が検出されることが期待されていた。しかし、表土掘削の時点で、当調査区も1区北半部同様、かなり広範囲の搅乱を受けていることが判明した。また、搅乱を免れた箇所について、地面が人為的に整地されているように見受けられた。そこで、当調査区では、北側・中央・南側にトレンチ（北側：幅約1.5～2m×長さ約22m、中央：幅約1m×長さ約12m、南側：幅約1m×長さ約15m）を設定し、搅乱の範囲及び整地層の堆積状況を確認した。結果、2区の北半部を中心に整地土の可能性がある薄い土層群が広がり、それを壊すように搅乱が重なっている様子が明らかになった。

なお、当調査区については、1区の調査と同時に調査を進めている期間があり、遺構番号の重複を

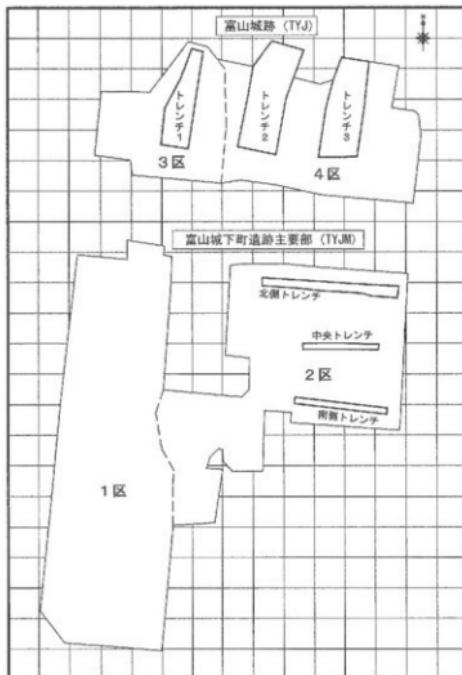
避けて遺構番号261～を付した。1区同様、遺構ではないと判断したもの番号はそのままであるため、遺構番号は286まで使用したが、途中欠番がある。

3区・4区（富山城跡西半・東半）

3区・4区は、古絵図では富山城三の丸外堀の一部（三の丸の南を東西に走る外堀の北半部と、それに伴う土塁）にあたり、武家屋敷地および町屋敷地にあたる1区・2区とは性格が全く異なることが予測された。そのため、両調査区とも、初めから外堀の構造解明に焦点を絞って調査を進めた。

外堀の調査にあたっては、周辺の砂質土が崩れやすい上、大規模な排水設備が設置できなかったことから、バックホウによる表土掘削後に堀の平面形を検出・確認した上で、3区に1ヶ所（トレント1:幅約2～5m×長さ約16m）、4区に2ヶ所のトレント（トレント2:幅約5～7m×長さ約18m、トレント3:幅約5～6m×長さ約16m）を掘削し、写真記録・土層記録等を取ることにした。各トレントは最終的に堀底面が出るまで掘り下げたが、一気に掘削すると周辺の土が崩落する可能性が高かったため、一度2m程度掘り下げて上位の断面記録を取った後、一段づけて堀底面まで掘り下げるという段掘りの形をとった。堀底面付近でかなり湧水が見られたが、水中ポンプを入れて排水しながら作業を進めた。安全を優先したため、堀を完掘することはできなかつたが、堀および土塁基底部の基本構造はできる限り詳しく記録を取つた。なお、3区・4区の南側の縦曲輪通り下には、電話線などが埋設されており、調査時も生活インフラとして使用されていた。周辺の砂質土が崩れてそれらに影響することを避けるべく、調査区周壁（特に南側）の法面の幅を厚くしたため、実際に表土掘削・遺構検出ができた範囲は、3区・4区の調査区外周よりも狭い。

富山城跡の遺構番号は、富山城下町遺跡主要部とは別の遺跡であるため、改めて1から付することにしたが、3区・4区ともに一連の堀跡のみが検出され、これをSD1とした。富山城下町遺跡主要部の背割下水SD1とは全く別の遺構である事を注意されたい。



第4図 調査区割・トレント位置図 (S=1/800)

第2節 基本層序

富山城跡・富山城下町遺跡主要部の基本層序は、それぞれ次の通りである（第5図・第1表）。

富山城跡

I層：表土層である。富山城下町遺跡のI層に対応する。2.5Y5/2暗灰黄色粗粒砂～砂質シルト。

II層：客土層である。2.5Y6/6明黄褐色粗粒砂～砂質シルト。

III層：自然堆積層である。富山城下町遺跡のIV層に相当するが、土質等に少なからず相違がある。IIIa～IIIuの21層に細分できる。2.5Y6/1黄灰色シルトなど。

IV層：自然堆積層である。富山城下町遺跡のV層に対応する。III層の下にある透水性の高い砂層を別にIV層とした。N5/灰色粗粒砂。

富山城下町遺跡主要部

I層：表土層である。富山城跡のI層に対応する。2.5Y5/2暗灰黄色粗粒砂。

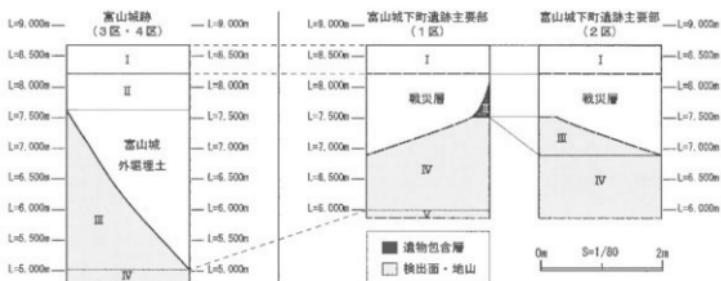
II層：遺物包含層である。試掘トレンチやごく一部の地点で存在が確認されたが、残りが悪く、遺物量もそれほど多くはなかった。10YR3/1黒褐色粘土質シルト。

III層：整地土層の可能性が想定された、層厚が比較的薄い層群である。IIIa～IIItの20層に細分できる。2区のみで確認でき、武家屋敷地造成と関わる可能性がある（古墳時代～中世の可能性を含む）。2区では、この層群の最上面を検出面とした。5Y4/1灰色細粒砂～シルトなど。

IV層：自然堆積層である。富山城跡のIII層に相当するが、土色・土質はかなり多様で、IVa～IVnの14層に細分できる。1区の全面および2区の一部で、この層群の最上面を検出面とした。10Y6/1灰色粘土質シルトなど。

V層：自然堆積層である。富山城跡のIV層に対応する。IV層の下にある透水性の高い砂層を別にV層とした。Va層（5GY5/1オリーブ灰色粗粒砂・細粒砂）とVb層（2.5GY5/1オリーブ灰色細粒砂）に二分できる。

なお富山城下町遺跡では、I層とII層の間に戦災層がある。この層は不定形の凹みが連続したような形を呈しており、検出面のIII層やIV層まで落ち込んでいることが多かった。そのため、調査中は一種の搅乱として扱っており、本報告でも基本層序の番号はあえて付さずに戦災層と表記した。（松永）



第5図 基本層序

富山城跡

地名	土層注記	性格
I	2.5Y5/2 墓灰黄色粗粒砂～砂質シルト	安土層
II	2.5Y6/6 明黄褐色粗粒砂～砂質シルト	寄土層
IIIa	2.5Y6/1 黄灰色シルト (細粒砂を含む。10YR6/1 墓灰色シルトをブロック状に含む。径 2~5cm の小礫含む。)	自然堆積層
IIIb	2.5Y5/1 黄灰色シルト (細粒砂含む。2.5Y4/1 黄灰色シルトをブロック状に含む。)	自然堆積層
IIIc	2.5Y6/2 黄色粗粒砂	自然堆積層
IIId	7.5Y3/2 オリーブ灰色シルト (細粒砂わずかに含む。)	自然堆積層
IIIe	10YR6/6 明黄褐色粗粒砂	自然堆積層
IIIf	7.5Y3/2 オリーブ黑色シルト (N5/1 黄灰色粗粒砂との躍土)	自然堆積層
IIIg	7.5Y1/1 灰色シルト (細粒砂含む。)	自然堆積層
IIIh	5Y6/1 灰色中粒砂 (5Y5/1 灰色シルトブロックを含む。)	自然堆積層
IIIi	N6/1 黑色中粒砂と 2.5Y5/1 黄灰色シルトとの躍土	自然堆積層
IIIj	2.5Y5/1 黄灰色シルト (中粒砂含む。)	自然堆積層
IIIk	2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂	自然堆積層
IIIl	N4/1 黄色粗粒砂 (径 5cm の小礫含む。)	自然堆積層
IIIm	10YR4/1 黑褐色シルト (細粒砂含む。)	自然堆積層
IIIo	7.5Y5/1 黄色シルト (細粒砂含む。植物片含む。)	自然堆積層
IIIp	5Y2/1 黑色シルト (細粒砂含む。SG7/1 明緑灰褐色シルトブロックを含む。)	自然堆積層
IIIq	7.5Y7/1 淡灰色シルト (細粒砂含む。)	自然堆積層
IIIr	10Y4/1 黑色シルト (細粒砂含む。白色粒子わずかに含む。)	自然堆積層
IIIr	2.5Y5/1 黄灰色シルト (細粒砂含む。)	自然堆積層
IIIr	7.5Y3/1 黄色シルト (細粒砂含む。径 5~10cm の小礫含む。)	自然堆積層
IIIr	10Y3/1 オリーブ黑色シルト (細粒砂含む。植物片多く含む。)	自然堆積層
IIIr	5Y3/1 オリーブ黑色シルト (細粒砂含む。植物片含む。)	自然堆積層
IV	N5/1 黄色粗粒砂	自然堆積層 (透水層)

富山城下町跡主要部

地名	土層注記	性格
I	2.5Y5/2 墓灰黄色粗粒砂	安土層
E	10YR3/1 黑褐色粘土質シルト	遺物包含層
IIIa	5Y4/1 黄色細粒砂	整地土層?
IIIb	5Y4/1 黄色シルト (粗粒砂、埴土ブロックわずかに含む。)	整地土層?
IIIc	2.5Y4/2 墓灰黄色シルト (炭化物含む。)	整地土層?
IIId	5Y4/1 黄色シルト (礫わずかに含む。)	整地土層?
IIIe	5Y4/1 黄色シルト (細粒砂含む。)	整地土層?
IIIf	5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト (2.5Y5/3 黃褐色粘土質シルト、細粒砂含む。マンガンが沈着する。)	整地土層? or 水田関係?
IIIg	5G7Y5/1 オリーブ灰色粘土質シルト (細粒砂を含む。マンガンが沈着する。)	整地土層? or 水田関係?
IIIh	5Y4/1 黄色粘土質シルト (炭化物含む。)	整地土層?
IIIi	5Y4/1 黄色シルト (細粒砂含む。)	整地土層?
IIIj	5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト	整地土層?
IIIk	2.5Y2/1 黑褐色粘土質シルト (縛、埴土ブロック含む。)	整地土層?
IIIl	5Y2/1 黑色粘土質シルト (5Y4/1 黄色細粒砂含む。)	整地土層?
IIIm	5Y4/1 黄色粘土質シルト (礫わずかに含む。)	整地土層?
IIIo	5Y4/1 黄色粗粒砂	整地土層?
IIIp	10Y4/1 黄色粗粒砂 (2.5Y3/1 黑褐色シルトを含む。)	整地土層?
IIIq	5Y4/1 黄色粘土質シルト	整地土層?
IIIr	5Y2/1 黑色粘土質シルト (炭化物含む。)	整地土層?
IIIr	5G7Y6/1 緑灰色粘土質シルト (5Y2/1 黑色粘土質シルトを含む。)	整地土層?
IIIr	SY2/1 黑色粘土質シルト	整地土層?
IVa	10Y6/1 黑色粘土質シルト	自然堆積層
IVb	7.5Y4/1 黄色シルト (細粒砂含む。)	自然堆積層
IVc	5G7/1 明緑灰褐色シルト (細粒砂含む。)	自然堆積層
IVd	7.5GY4/1 寄緑色細粒砂	自然堆積層
IVe	NG/6 黄色シルト	自然堆積層
IVf	7.5GY5/1 緑灰色粘土質シルト	自然堆積層
IVg	5GY5/1 オリーブ灰色粘土質シルト	自然堆積層
IVh	10Y4/1 黄色粘土質シルト	自然堆積層
IVi	7.5GY4/1 寄緑灰色粗粒砂 (礫混めて多く含む。)	自然堆積層
IVj	7.5GY4/1 寄緑灰色粗粒砂	自然堆積層
IVk	N7/1 黄色粗粒砂	自然堆積層
IVl	7.5GY6/1 黄色粘土質シルト	自然堆積層
IVm	10Y5/1 黄色粘土質シルト (10Y6/1 黄色粘土質シルト、7.5GY6/1 緑灰色粘土質シルトを層状に含む。)	自然堆積層
IVn	7.5Y4/1 黄色シルト (10Y5/1 黄色粘土質シルトを層状に含む。)	自然堆積層
Va	5GY5/1 オリーブ灰色粗粒砂 - 細粒砂	自然堆積層 (透水層)
Vb	2.5GY5/1 オリーブ灰色粗粒砂	自然堆積層 (透水層)

第1表 基本層序一覧